

ふくい環境フェア2012

展示や体験を通して、県民が福井県の環境を守り育てることの大切さを考え、行動する県民運動の拡大を図るため、当協議会は、平成24年10月12日（金）13日（土）に、JR福井駅周辺で、ふくい環境フェア2012を開催しました。今回は、平成25年秋に開催される「SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ」第4回定例会合のプレイイベントとしても位置付け、福井の里山を中心でPRしました。

今回で4回目の開催となる環境フェアは、12日のシンポジウムと13日の環境トーカステージ、イベント・展示コーナーの3本構成で行いました。

イベント・展示コーナー

イベント・展示コーナーでは、里山関連ブースを中心に、県内企業、環境保全団体等合わせて約40社の皆様に、実際の体験を通して環境について考えていただききっかけとなるような工夫を凝らしたご出展をしていただきました。

②工エネルギー「コーナー」
再生可能エネルギーや蓄電池など、エネルギーを有効に利用する商品の展示や、体を使つた発電体験などが紹介され、風力発電でミニカーを走らせることができると、子ども達が一生懸命、団扇で発電機をおいでいました。



環境活動の展示・古本の販売

平成24年7月にラムサール条約湿地に登録された、中池見湿地の紹介や、白山・坂口地区のコウノトリの活動紹介、福井県内の里地・里山の写真などが展示されました。



福井のSATOYAMAをPR

③エコライフ「コーナー」
環境に取り組まれている県内企業・団体などが出演したエコライフコーナーでは、マイバックの作成体験やふくいのおいしい水の試飲、古本市などを行われました。



省エネ製品の展示

シンポジウム



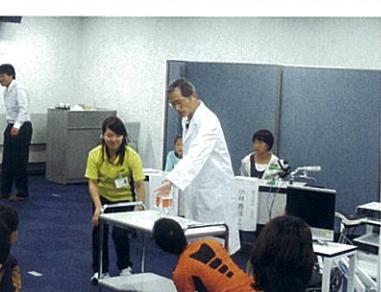
三方小学校の発表の様子

アオツサ県民ホールで開催したシンポジウムでは、若狭町立三方小学校の児童による田んぼや生き物を紹介する創作劇から始まり、循環型社会形成推進功労者表彰が行われました。続いて、俵越山氏が福井の里山と人々の暮らしについて講演し、最後に書の披露も行われました。

環境トーキステージ



俵越山氏講演



エンゼルランドによる発表と劇の様子

今回の環境フェアでは、「SATOYAMA」、

②俵越山氏

テレビ番組「俵太の達者でござる」で活躍された「越前屋俵太」こと、俵越山氏が、「越前若狭『里山』見廻り談義」と題し、講演されました。

講演では、10年間の番組経験を通し、感じ取った福井の里地里山の魅力を紹介しました。

大野で出会った、雪解け水で洗濯するおばあちゃんの話を例に、「里山とは、その自然単体ではなく、そこに暮らす人々がいてこそ大事なのだ。」とお話しされました。

最後に、「SATOYAMAニアティブ国際パートナーシップ」第4回定例会合に向けて、書の披露を行いました。書には「SATOYAMA」と大きく書かれ、参加者からは大きな拍手と歓声が起きました。会合に向けた大きな一步となつたのではないかでしょうか。

①エンゼルランドふくい提供
「みんなで話そう！エネルギーの未来」
発表者 小学校高学年の皆さん
劇発表者 中川博士とサイエンスな仲間たち
エネルギーについて、関心のある子ども達が生活の中で気になったテーマを決め、調べたことを発表しました。家庭の電化製品の中で最も電気を使っているものは何か調べ、使用時間帯ごとに分析し、節電するための方法を考えたり、太陽光・風力などの自然エネルギーの特徴、普及に向けた課題などを調べて発表しました。

また、発表の合間に、私たちの生活の中でのエネルギーの問題点を、実験を交えた創作劇で紹介しました。生活に身近なテーマでの発表に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

「エネルギー」、「循環型社会形成」、「水環境」の4つをテーマに、パネルディスカッション、発表、講習会といった、様々なトーキステージを開催しました。

シンポジウム

アオツサ県民ホールで開催したシンポジウムでは、若狭町立三方小学校の児童による田んぼや生き物を紹介する創作劇から始まり、循環型社会形成推進功労者表彰が行われました。続いて、俵越山氏が福井の里山と人々の暮らしについて講演し、最後に書の披露も行われました。

アオツサ県民ホールで開催したシンポジウムでは、若狭町立三方小学校の児童による田んぼや生き物を紹介する創作劇から始まり、循環型社会形成推進功労者表彰が行われました。続いて、俵越山氏が福井の里山と人々の暮らしについて講演し、最後に書の披露も行われました。

(2) 「里山ビジネス奮闘記」

コーディネーター 大塚玲奈氏（株式会社コトワザ代表取締役）

パネラー 山田晃裕氏（山田兄弟製紙株式会社代表取締役）

〃 山崎洋子氏（おけら牧場・ラーバンの森経営）

船井達之氏（株式会社ナワーズ代表取締役）

エコ商材ネット販売などの経営をしている大塚氏をコーディネーターに招き、県内で環境と共生した事業を開拓する経営者3人とパネルディスカッションを行いました。

刈り取り後のヨシを活用し、紙づくりをしてい

る山田氏、地域住民を巻き込みながら、環境に優しい農業を行っている山崎氏、県産材を使った箸を製造している船井氏と、環境への取り組み方は様々でしたが、大塚氏からは、それぞれが里地里山の素材とうまく付き合っていると講評を受けていました。参加者は熱心に聞き入り、経営のノウハウについて質問していました。



里山ビジネスの様子



里山ビジネスの様子

燃えるごみの4割以上を占める生ごみの減量化・リサイクルを促進するため、自宅で手軽にできる「ダンボールコンポスト」の実践講座を開催しました。

「ダンボールコンポスト」は、生ごみを専用の基材を入れたダンボールに入れて混ぜ合わせると、微生物の働きによって堆肥化される仕組みです。

40名の方が受講され、コンポストについての基本的な説明を聞いた後、実際にコンポスト作り体験を行いました。

臭いも少なく、ベランダ等でも簡単にできる魅力を知った受講者の皆さんからは、ぜひ家庭で実践したいという声がたくさん聞かれました。



ダンボールコンポスト作り体験の様子

（真名川水辺の楽校ビオフレンズ代表）
水環境の専門家である奥村氏をコーディネーターに招き、嶺北、嶺南、国内の枠組みの中で水について取り組んでおられる3人とパネルディスカッションを行いました。

大野市の真名川を中心に出張授業を行い、かつての真名川本来の生き物が生息する川となるよう整備している高津氏、地下水が海への供給だけでなく、川の生物多様性にも貢献していることを発見した富永氏、地下水が海底に流れていることで文化や魚介類の生態に寄与していることを発見した谷口氏と、取り組み方は様々でした。参加者は熱心に聞き入り、地下水の保全について質問していました。



「『おいしい』だけじゃない、ふくいの水のヒミツ」ディスカッションの様子

高津琴博氏

(3) 「ダンボールコンポスト講習会」

講師

宮田宏美氏（NPO循環生活研究所認定ダンボールコンポストアドバイザー）

パネラー 富永修氏（福井工業高等専門学校准教授）

〃 谷口真人氏

（福井工業高等専門学校准教授）

コーディネーター 奥村充司氏

④ 「『おいしい』だけじゃない、ふくいの水のヒミツ」

当日は晴天で、延べ1万5千人を超える多くの方に来場いただきました。今回の環境フェアで、1人でも多くの方が環境の大切さを考えるきっかけとなつたことを期待しています。